

WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2025 年 8 月）

■ 8 月のパフォーマンス

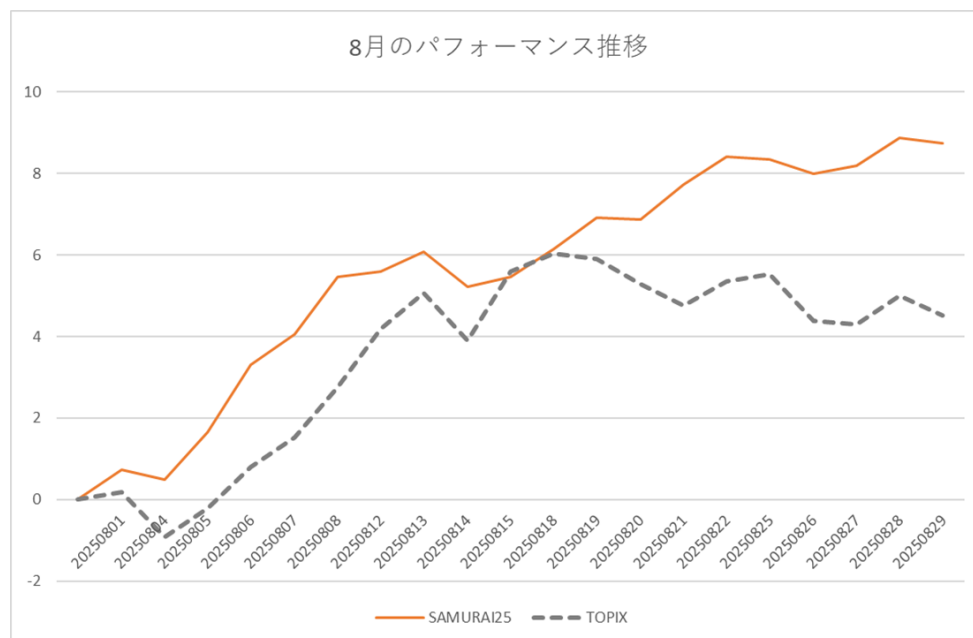
➤ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	+8.71 %
------------	---------

➤ 各指標の月間騰落率

TOPIX	+4.49%	(配当込み)	+4.52%
日経225	+4.01%		
NYダウ	+3.20%		
S&P500	+1.91%		
NASDAQ	+1.58%		

➤ 当月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI25	8.71%	19.22%	25.57%	20.85%	150.67%
TOPIX	4.52%	9.94%	16.20%	16.23%	95.86%
超過収益	4.19%	9.28%	9.37%	4.62%	54.81%

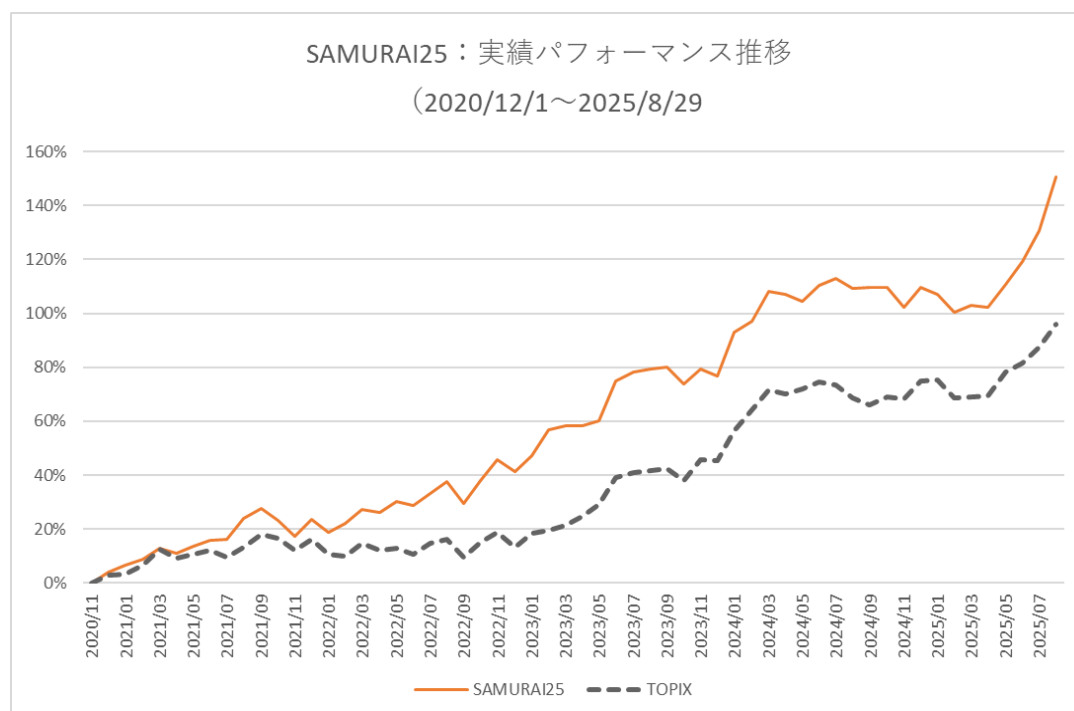
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています

SAMURAI 25の8月の成績は、月間で+8.71%、対ベンチマーク比では+4.19%となり、ベンチマークを大幅にアウトパフォーマンス！！

➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2025年8月末までの運用実績です。



運用成績	SAMURAI25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	19.50%	11.95%
累積リターン(2020/12-2025/8)	150.67%	95.86%

リターン（年率換算）	21.34%	15.20%
リスク（年率換算）	12.01%	10.73%
下方リスク(年率換算)	5.42%	5.58%
シャープ・レシオ	1.78	1.42
ソルティノ・レシオ	3.94	2.73

※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する日本株おまかせ投資サービス「Wealth Wing」において、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジンを搭載したサービスです。運用実績には、「Wealth Wing」の日本個別株の運用エンジンによる2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています

■ 8月の市況概況

➤ 日本市場

8月日本市場は、米国市場の動向と日銀の金融政策修正観測、そしてトランプ関税の影響が複合的に絡み合う展開となりました。米国株高を背景に日経平均は市場最高値を更新する一方、自動車産業を中心に米国の関税影響が顕在化し、企業業績に下方修正が相次ぎました。日銀はインフレ率の高止まりを受け、年内の利上げ継続方針を示唆しましたが、FRBの利下げ観測との金利差縮小が円高圧力となり、市場はこれらの綱引きの中で方向感を模索しました。海外投資家の資金流入と国内企業の自社株買いが株価の下支えとなりましたが、過熱感への警戒も高まりました。

・第1週（8月1日）：米国雇用統計に揺れる日本株と為替

（日経225：△0.66% TOPIX：+0.19%）

6月の有効求人倍率が2ヶ月連続で低下するなど、国内雇用需要には陰りが見え始めるなか、夜間に発表された米国の7月雇用統計が予想を下回る弱い結果となり、為替市場ではドル円相場が150円60銭近辺から148円70銭台へと急速に円高ドル安が進行、日経平均先物夜間取引では大きな下落となりました。

・第2週（8月4日～8日）：株価の調整と内政の動き

（日経225：+2.50% TOPIX：+2.56%）

米国雇用統計ショックの影響が継続し、日経平均株価は一時900円以上下落し4万円を割り込む大荒れの展開となりました。円高ドル安は1ドル147円台まで進行し、市場はFRBの9月利下げを8割型織り込みました。一方、国内では2025年度の最低賃金が全国平均で時給1118円と過去最大の上昇となり、また、農林水産品の輸出額は上半期で過去最高を更新、ANAは国際航空貨物専門会社のNCA買収を完了するなど、明るい材料もあり日本市場は底堅さを見せました。

・第3週（8月12日～8月15日）：円安・株高の加速と企業決算関税影響の顕在化

（日経225：+3.73% TOPIX：+2.76%）

日経平均株価は5日続伸し、約1年ぶりに市場最高値を更新、一時4万3000円台に乗せました。しかし、米国トランプ政権の対日関税15%発動が本格化し、トヨタは関税と円高を要因に2026年3月期の純利益見通しを下方修正、マツダも営業利益が7割減となる大幅な減益を見込み、ホンダは影響額が縮小し通期見通しを上方修正しました。一方、日銀の6月会合議事要旨では、米関税の影響を見極めつつ利上げプロセス再開を考える意見が示されました。

・第4週（8月18日～8月22日）：利上げ警戒と日本経済の底堅さ

(日経225 : Δ 1.72 % TOPIX : Δ 0.22 %)

長期金利は1.61%と17年ぶりの高水準を記録しました。これは日銀の年内利上げ観測が高まったことが背景にあります。しかし、FRBパウエル議長がジャクソンホール会議で利下げの可能性を示唆したことで、米国株が大幅上昇し、日経平均も翌日には一時500円超上昇する場面がありました。日本経済は4-6月期のGDP速報値が年率換算1.0%増と5四半期連続のプラス成長を記録し、国内経済の底堅さが意識されました。一方で、トランプ関税の影響が7-9月期に本格化する懸念も指摘されました。ソニーグループやソフトバンクグループは好決算を発表し、コンテンツ投資やAI投資が牽引役となりました。

・第5週（8月25日～8月29日）：ハイテク株調整とFRB介入による円安圧力の継続

(日経225 : +0.2% TOPIX : Δ 0.83 %)

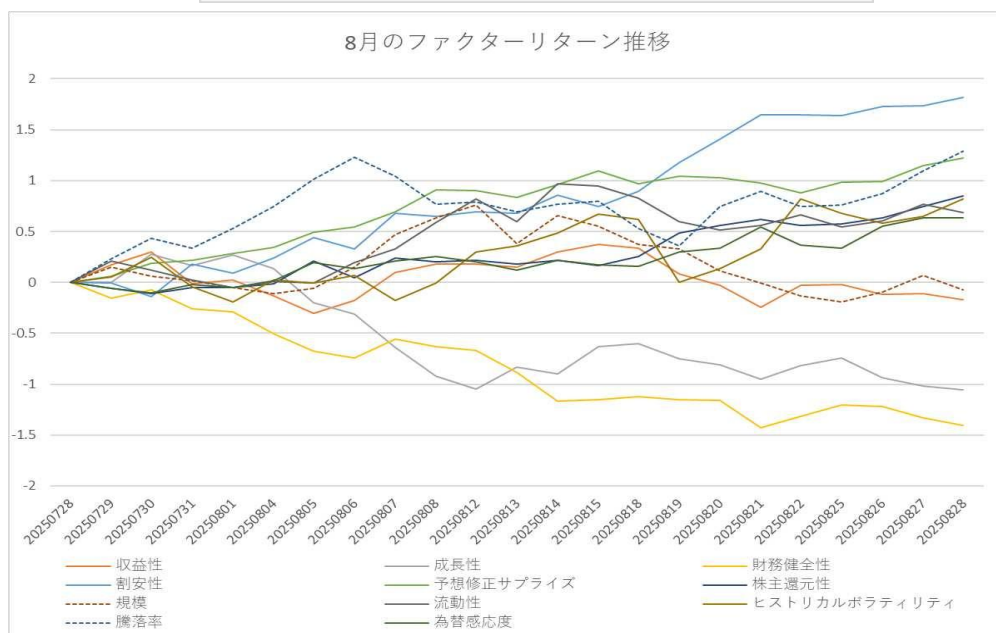
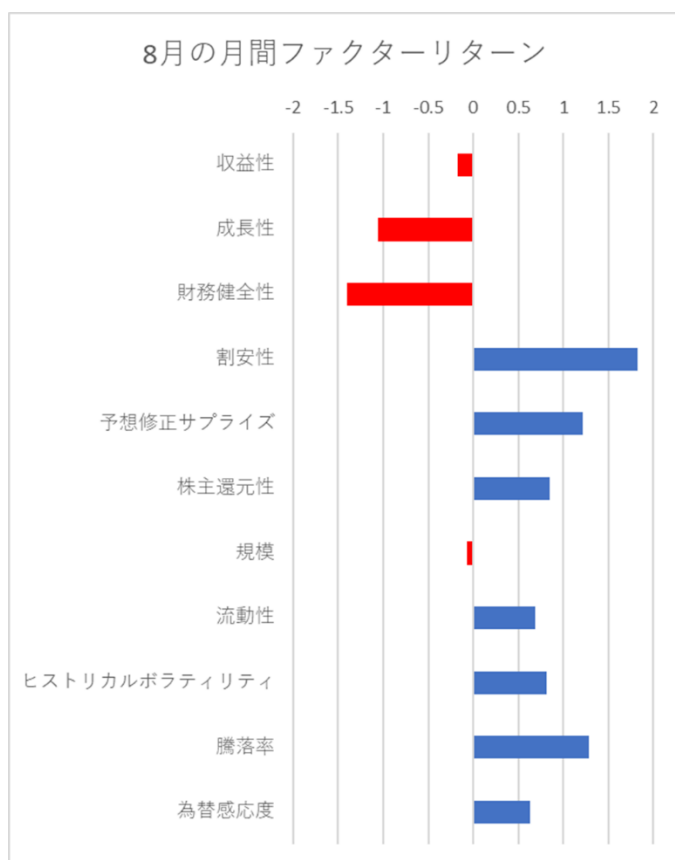
前週のパウエルFRB議長による利下げ示唆を受け、日経平均は一時上昇しましたが、米国市場でのハイテク株の利益確定売りや長期金利への警戒感、さらに円安が重しとなり失速、米国ハイテク株の調整を受け日経平均は再び3日続落しました。日銀の中川審議委員は利上げ継続の方針を示し、日本経済のインフレ定着と名目GDP拡大が日本株を中長期的に押し上げるとの見方も示されました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

8月は、上昇傾向にある中小型の好業績・割安・高配当銘柄が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、割安性ファクター・騰落率ファクター・予想修正サプライズファクター・株主還元性ファクターが大きくプラスとなる一方、規模ファクターがマイナスとなり、これまで米国市場を牽引していた大型テック銘柄が調整し日本市場でも半導体関連株が調整するなか、7月に続きハイリスクの中小型株が選好され、その中でも特に8月は好業績の割安・高配当銘柄へ資金が向かったことがみて取れます。



➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、SAMURAI25は、市場平均であるTOPIXを大幅にアウトパフォームする結果となりました。

SAMURAI25がTOPIXをアウトパフォームした要因は、SAMURAI25が持つバリュー要素である「割安・高配当」特性が大きく寄与、さらに、市場平均よりもオーバーウエートしている予想修正サプライズファクター及び騰落率ファクターもプラスに寄与したことです。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	3407	旭化成株式会社	6.1%	0.89%	総合化学メーカーであり、多角的な事業を展開しています。一部の採算性の低い化学品事業からの撤退や、ヘルスケア事業など成長分野への経営資源の集中等が評価されています。
2	8015	豊田通商株式会社	6.8%	0.77%	豊田通商は、トヨタグループの総合商社です。自動車関連事業を中核に、多岐にわたる事業を展開しています。自動車関連事業の堅調な収益力、非資源分野やアフリカ事業などの多角的な事業展開等が評価されています。
3	1961	三機工業株式会社	8.6%	0.72%	三井グループの総合設備工事会社です。建築設備、機械システム、環境システムなど多岐にわたる事業を展開しています。特に、空調設備、電気設備、衛生設備などの建築設備に強みを持っています。好調な業績、株主還元への積極的な姿勢が評価の背景にあります。
4	1980	ダイダン株式会社	3.0%	0.69%	明治期から続く総合設備工事の老舗で、空調、水道衛生、電気工事を主力としています。関西を地盤としつつ、首都圏での事業を拡大しています。大幅な増収増益と利益率の改善が評価されています。
5	9024	株式会社西武ホールディングス	2.7%	0.63%	陸運業を中核とする持株会社で、傘下に西武鉄道、プリンスホテル、横浜八景島を持っています。都市交通・沿線事業、ホテル・レジャー事業、不動産事業が主な事業の柱です。インバウンド需要の回復によるホテル事業の好調がある一方で、世界経済の動向やコスト増といった懸念も存在しています。

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

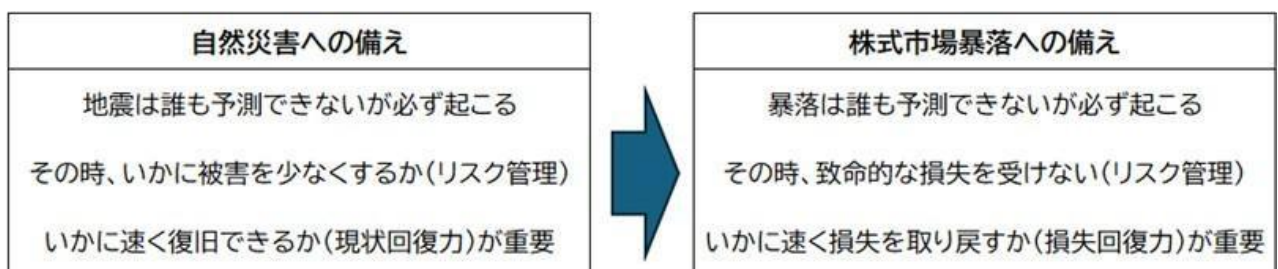
特色 3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています、
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています。
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています。

以上

※本レポートは、2025 年 9 月 2 日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】  Jトラストグローバル証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	【口座管理機関】  株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
--	---